

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	ピュアの樹 (とみお)		公表日		8年 4月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		勤務体制及び、勤務体制一覧表を作成し日々確認している。	
	3	7年 4月 15日	6		移動の導線に段差があるが、段差を活かした運動遊びを提示している。	子どもの動きを見つ、適宜クッション、ステップ、スロープを設置を努めている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子ども単独ではなく職員の見守りの中、クールダウンできる様な環境を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		定期的なミーティングやケース会議において情報共有、振り返りを行っている。	モニタリングの記入についても個々に関わる職員全員で行うことを心掛けている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に職員ミーティングを行い情報共有を行っている。	パート職員のためのミーティング等も行い、発信しやすい環境設定に努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		行政主催の研修、他事業所主催の勉強会、WEB研修へ参加している。	外部講師等も招き定期的な研修受講を心掛けている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ内に毎月・毎週のプログラム活動のねらいを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管が原案作成後、担当者会議にて個々に関わる職員と検討、見直しを行い作成している。	職員が自由に発言できるように発言しやすい環境を整えることに努めています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		担当者会議での内容はすべての職員に周知している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			会議だけではなく、日々の会話の中にも情報を共有する機会を心掛けている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		プログラム立案を職員全員で行い、一貫性のあるプログラムが作成できるように工夫している。	会議に参加できないパート職員にも情報を共有できるように撮影等を行い一貫性になるよう努めています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		スモールステップで目標を達成できるように1ヶ月を通して一貫性のあるプログラムを作成している。	個々の達成度に応じて内容を変更するなど一人一人に合った内容を提供するよう心掛けている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		療育を実施するリーダー、サブで事前に打ち合わせを行い、進め方や役割について確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		勤務時間の兼ね合いで当日振り返りが難しい場合は、個人記録に記入し全員で情報を共有している。	

関係機関や保護者との連携	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			保護者または相談支援員等に間に入ってもらう連携の体制を整えようとしている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			保護者の同意のもと情報共有、積極的な連携を行えるよう努めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			児童発達支援センターとの連携を検討していきたいと考えている。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6			他事業所との交流はまず保護者の希望を確認し検討していきたいと考えている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		毎回療育終了後保護者へのフィードバックを行っている。	保護者と連絡帳等を利用し共通理解を努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者向けイベントとしてペアレントトレーニングや座談会、親子イベント等を実施し、家庭支援につなげている。	より多くの保護者に参加していただけるように、日時、内容等をブラッシュアップに努めている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		フィードバック時や、連絡帳、電話対応等を活用して対応している。	保護者が気軽に相談できる様、信頼関係を深める努力をしている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	保護者イベント内のハンドメイドで保護者同士が気軽に話せる場を提供している。	きょうだいについては今後積極的に計画していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		紙媒体でのビュアの場だより（年4回程度）発行やインスタグラムで事業所案内をしている。	フィードバック時に声掛けをすることで保護者へ意識してもらえよう心掛けています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			保護者の要望を聞きながら検討していきたいと思っています。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事業所内でマニュアルを共有している 保護者には有事の際の連絡方法等をお知らせを配布している。	家庭でも共有してもらえるように、 フィードバック時の声掛けを心掛けている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		6		服薬、てんかん発作等は確認しているが 予防接種は行っていない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		食事提供は行っていないがアセスメント時に アレルギーについて聞き取り、季節のイベント等ではお菓子を渡している。	年に数回のことだが、安全面を怠らに様 毎回確認を努めている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	3		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ミーティング時やファイルを閲覧すること で共有している。	ファイルでの閲覧だけではなく、 ミーティングで直接共有する時間を 設ける努力をしている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年数回虐待防止委員会を開催したり、 セルフチェックシートを記入、 随時虐待防止の研修を行っている。	職員が常に意識できる様、ミーティング でも触れることで意識を高めている。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		身体拘束を行うことはないが、必要と 判断する場面については職員間で共有し、保 護者への説明を行い対応している。	セルフチェックシートの記入を通して毎月各 自が振り替えられる機会を設けている。	